

# 平成28年におけるコミュニティサイト等に 起因する事犯の現状と対策について

## 1 全体の傾向

- (1) コミュニティサイト及び出会い系サイトに起因する事犯の被害児童数の推移
- (2) 罪種別の被害児童数の推移(コミュニティサイト)
- (3) 年齢別の被害児童数の推移(コミュニティサイト)
- (4) 罪種別の被害児童数の推移(出会い系サイト)
- (5) 年齢別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

資料1

資料2

資料3

資料4

資料5

## 2 被害の現状

- (1) 主なコミュニティサイト種別の被害児童数の推移
- (2) 被害児童のコミュニティサイトへのアクセス手段(割合)の推移
- (3) コミュニティサイトにおける児童被害の現状
- (4) 被害児童数が多いサイト

資料6

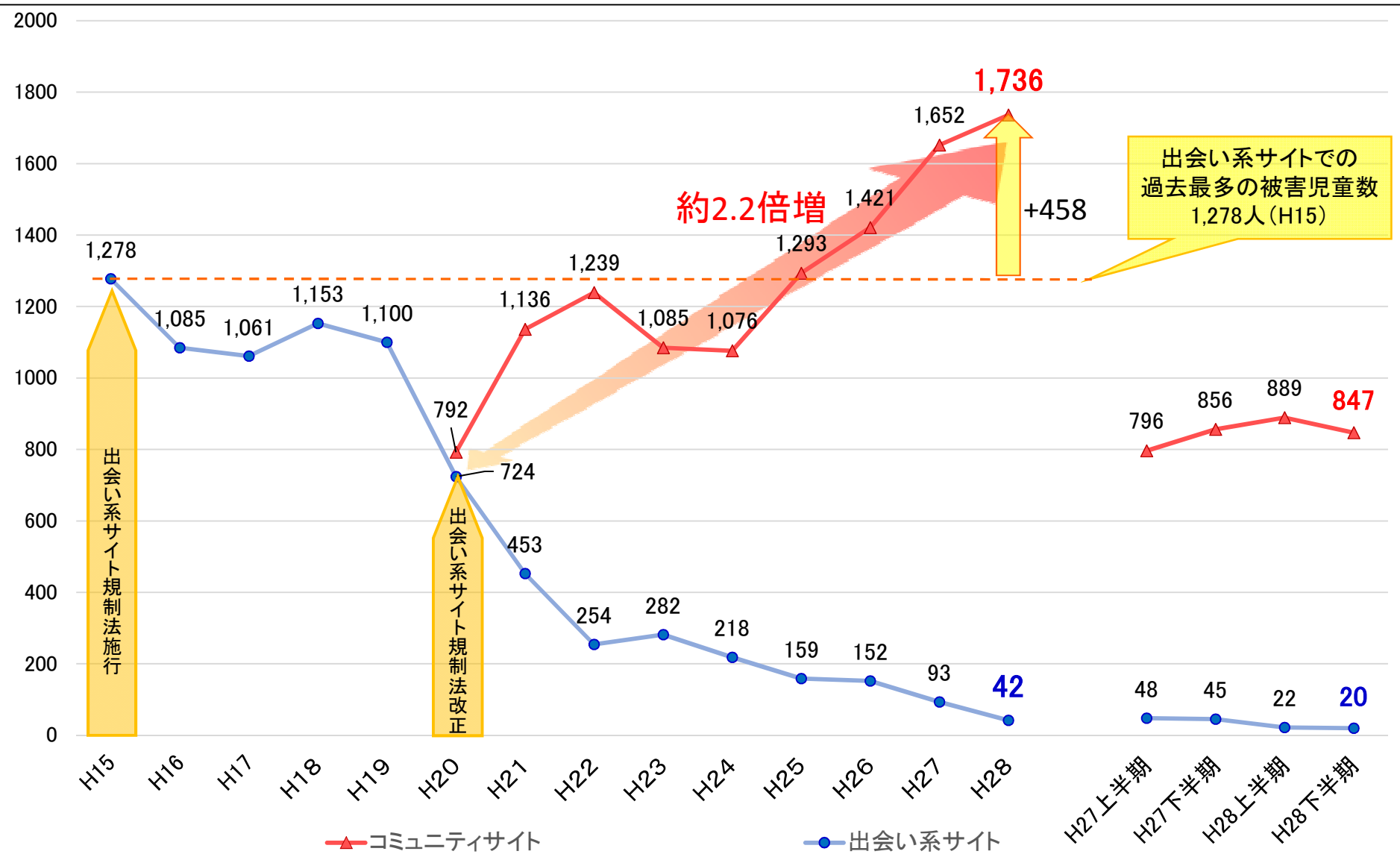
資料7

資料8

資料9

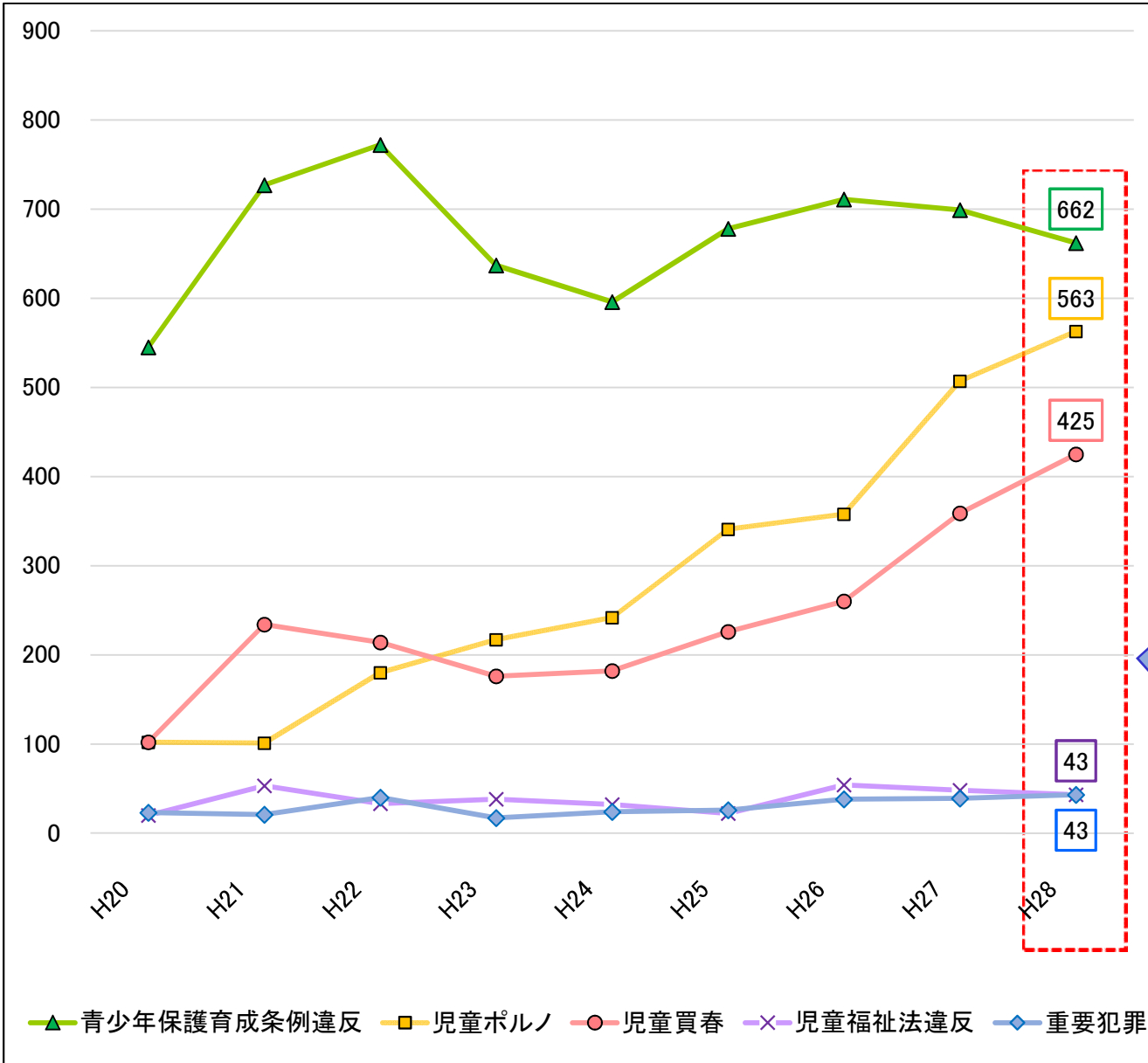
# 資料1 コミュニティサイト及び出会い系サイトに起因する事犯の被害児童数の推移

- コミュニティサイトにおける被害児童数は増加傾向が継続し、過去最多。
- 他方、出会い系サイトにおける被害児童数は更に減少し、過去最少。

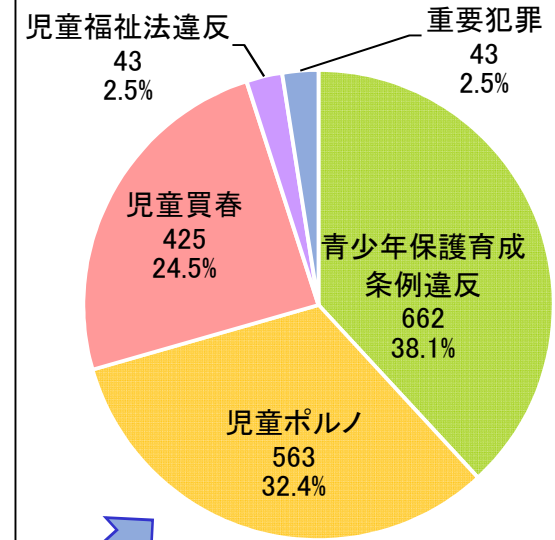


# 罪種別の被害児童数の推移(コミュニティサイト)

コミュニティサイトでは、児童買春及び児童ポルノの被害児童数が増加。他罪種はほぼ横ばい傾向。

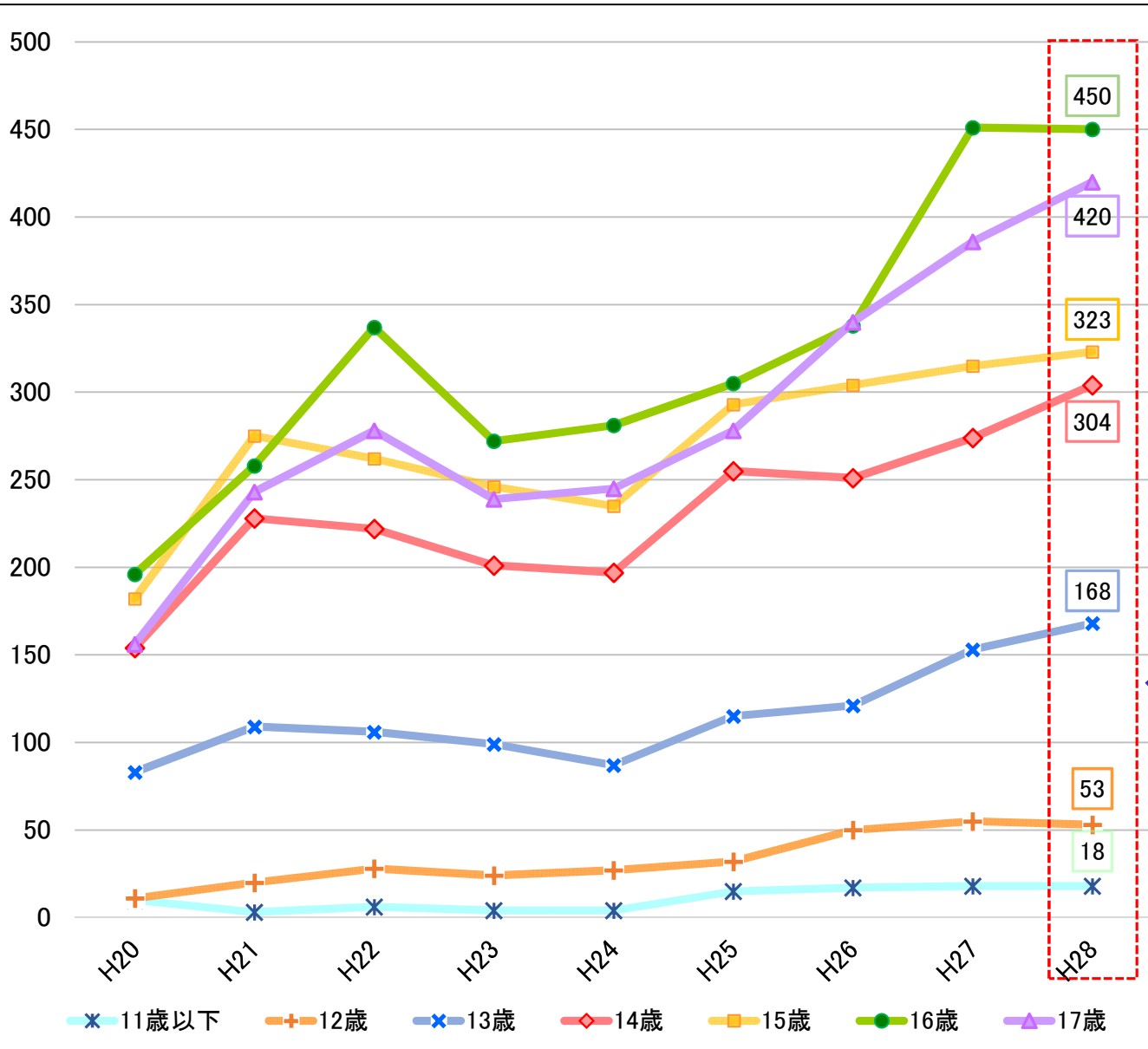


罪種別の被害児童数の構成比(H28)

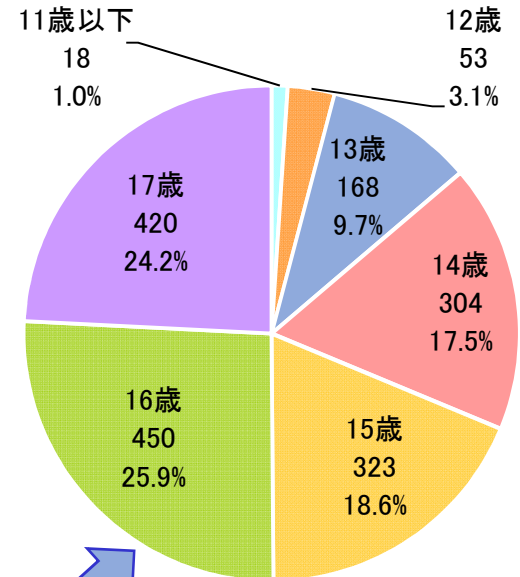


# 年齢別の被害児童数の推移(コミュニティサイト)

14歳以上の被害児童数が多い。特に16歳、17歳の被害児童数の増加傾向が顕著。

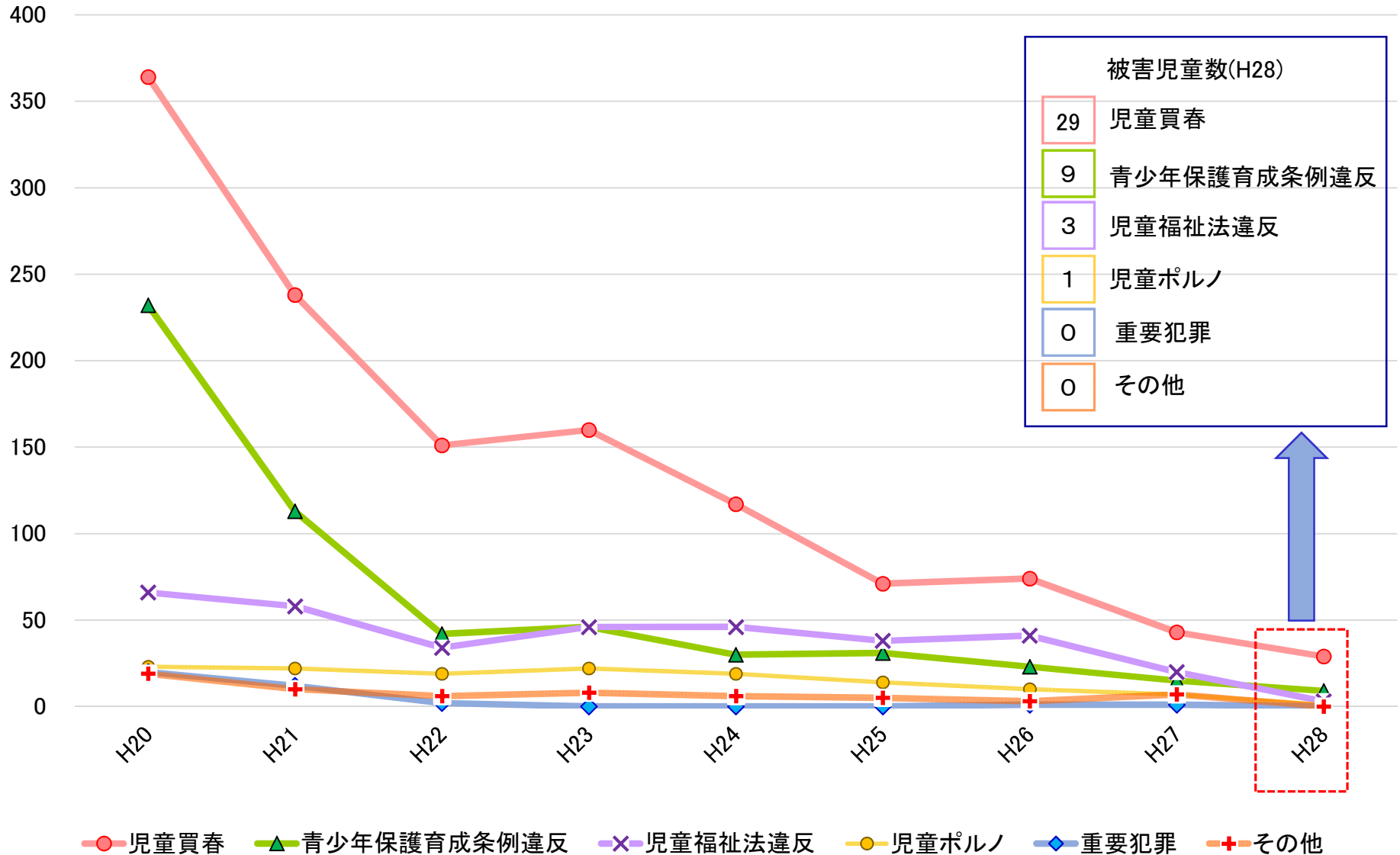


年齢別の被害児童数の構成比(H28)



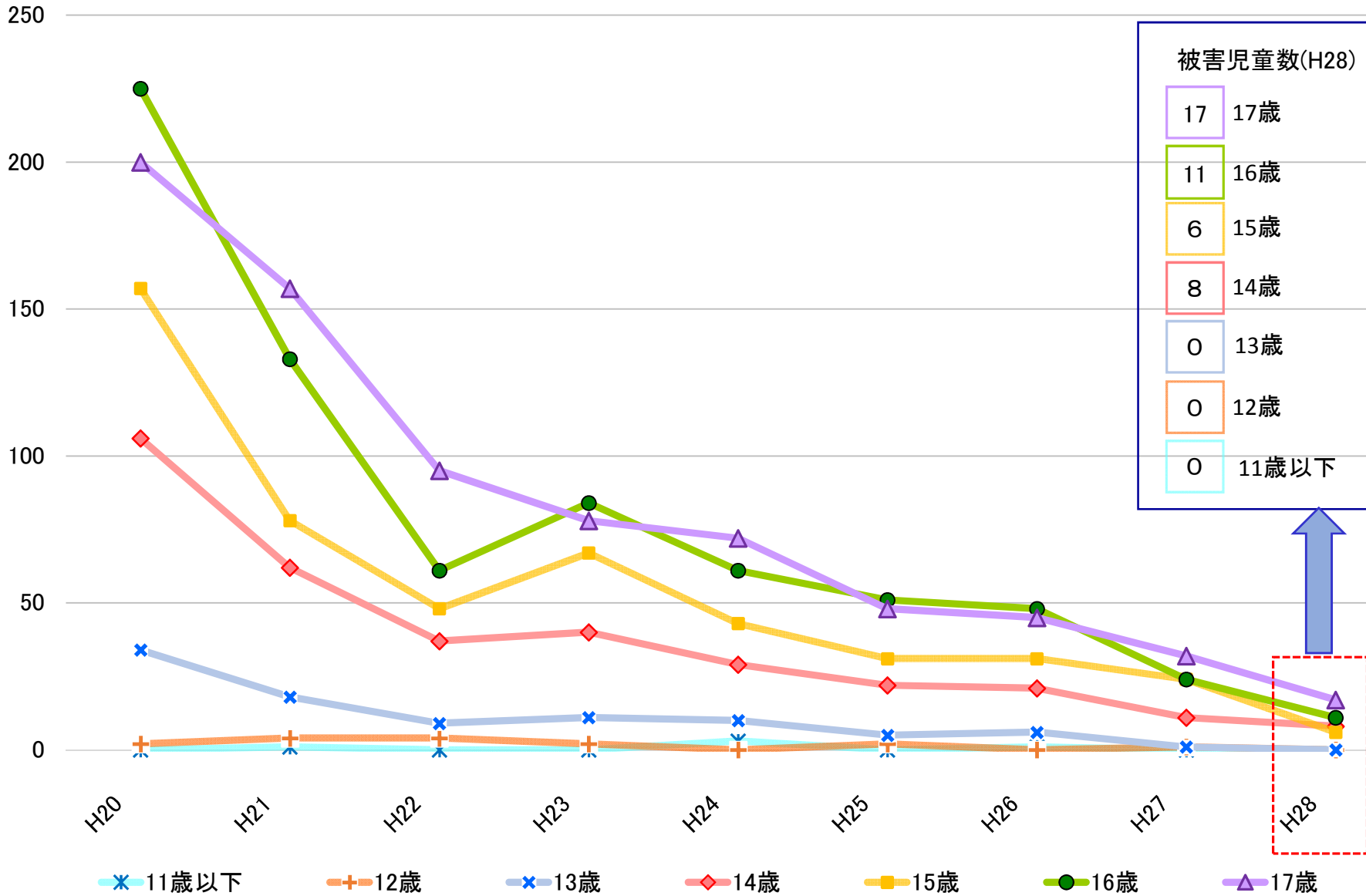
## 罪種別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

出会い系サイトでは、平成20年の出会い系サイト規制法の改正に伴い、事業者による届出や年齢確認、書き込みの確認強化や警察の取締り等により、いずれの罪種においても被害児童数は減少。

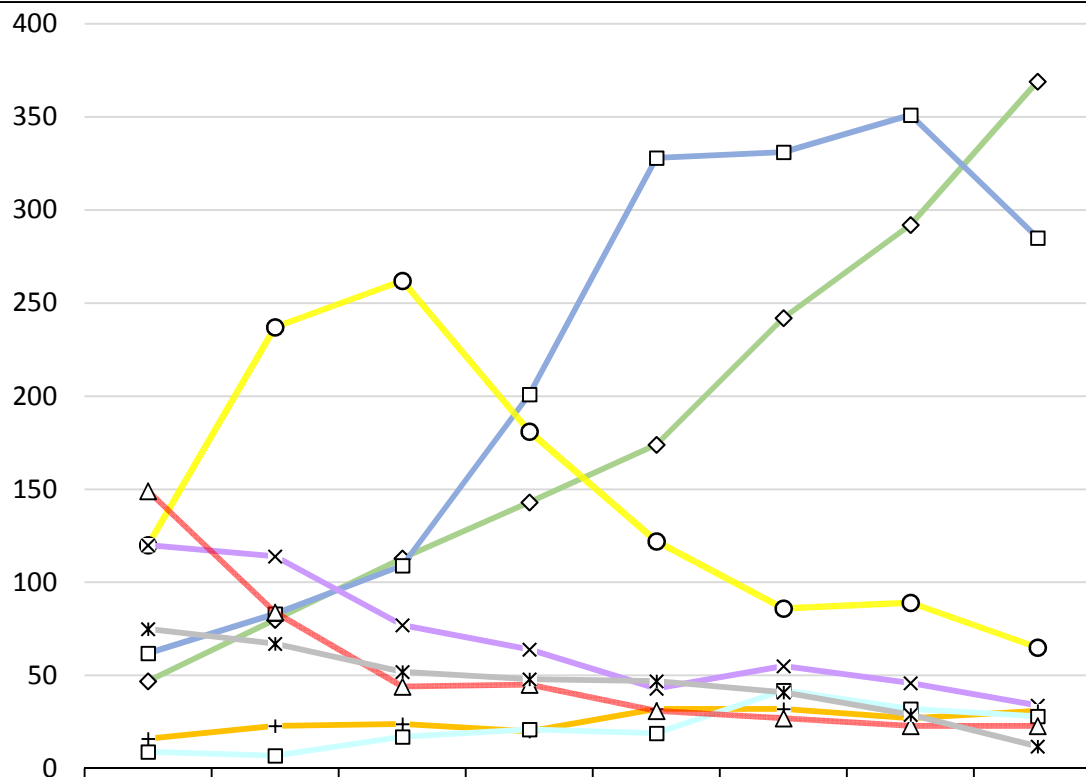


## 年齢別の被害児童数の推移(出会い系サイト)

かつて14歳以上を中心に多く見られた被害児童数は大幅に減少。平成28年中は13歳以下の被害はなし。



複数交流系での被害児童数が大幅に増加し、チャット系に代わり最多。



**複数交流系**：広く情報発信や同時に複数の友人等と交流する際に利用されるサイト

(Twitter、LINE、Facebookなど)

**チャット系**：面識のない利用者同士がチャットにより交流するサイト  
(ぎやるる、ひま部、友達作りTalk、ひまチャットなど)

**ID、QRコード交換系**：IDやQRコードを交換し、見知らぬ相手と交流することを目的としたサイト  
(ひまトークなど)

**ブログ、掲示板系**：趣味やカテゴリ別のコメント、日記等を掲載し、それを閲覧した利用者とは交流するサイト

**ランダムマッチング系**：ランダムに他の利用者と結びつき、その利用者とは交流するサイト  
(斉藤さんなど)

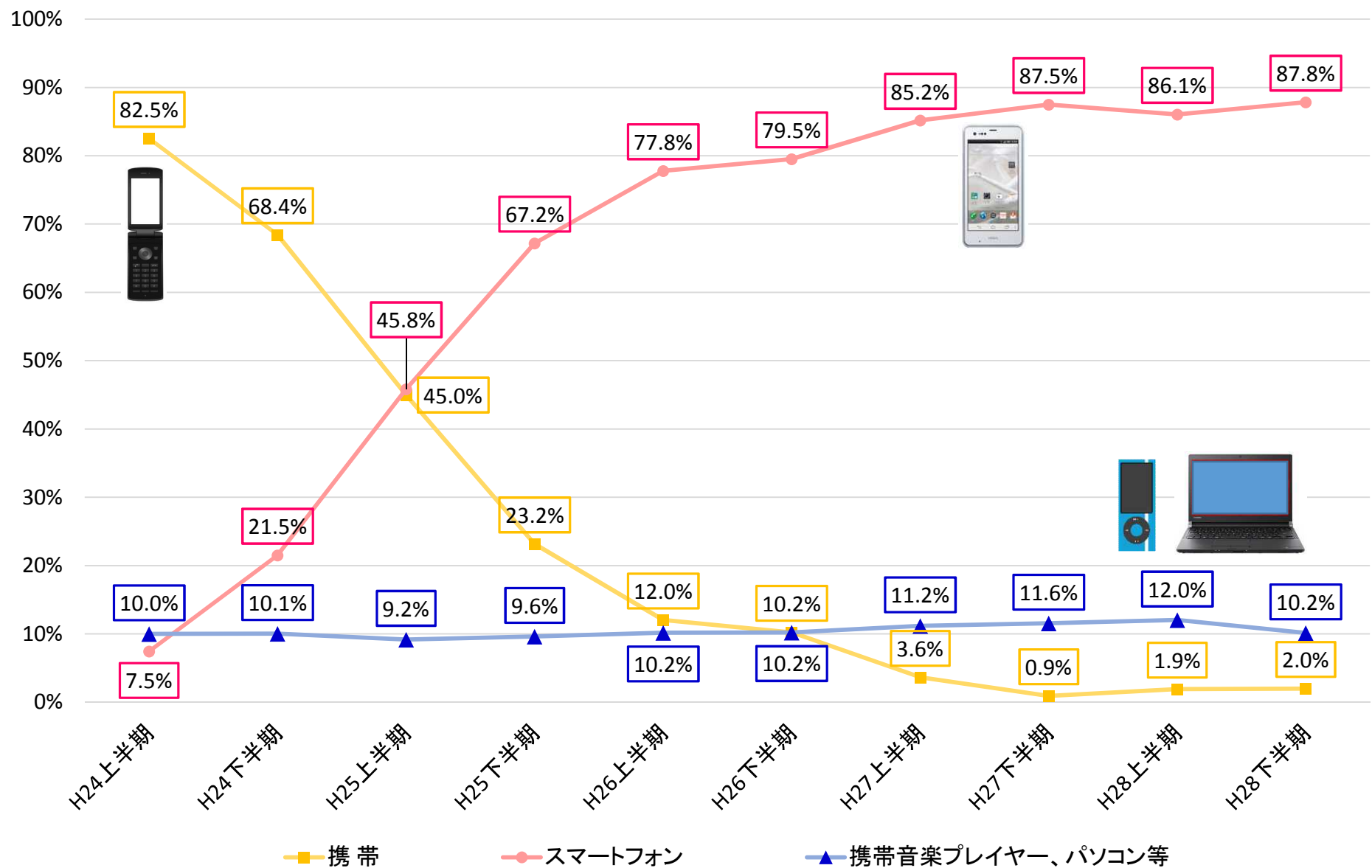
**動画等投稿・配信系**：動画や画像、音声等を投稿、配信し、それを閲覧した利用者とは交流するサイト  
(ツイキャスなど)

**ゲーム、アバター系**：主にゲーム等のキャラクターやアバターとして他の利用者とは交流するサイト

**不明**：サイトやアプリを特定するに至らなかったもの

## 被害児童のコミュニティサイトへのアクセス手段(割合)の推移

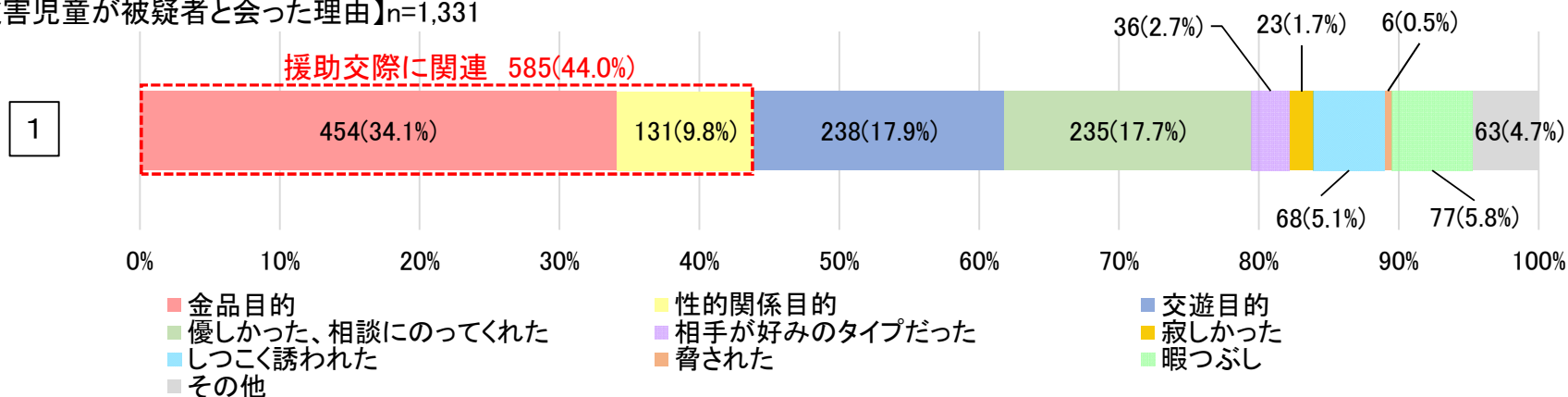
被害児童のコミュニティサイトへのアクセス手段は、約9割がスマートフォン利用。



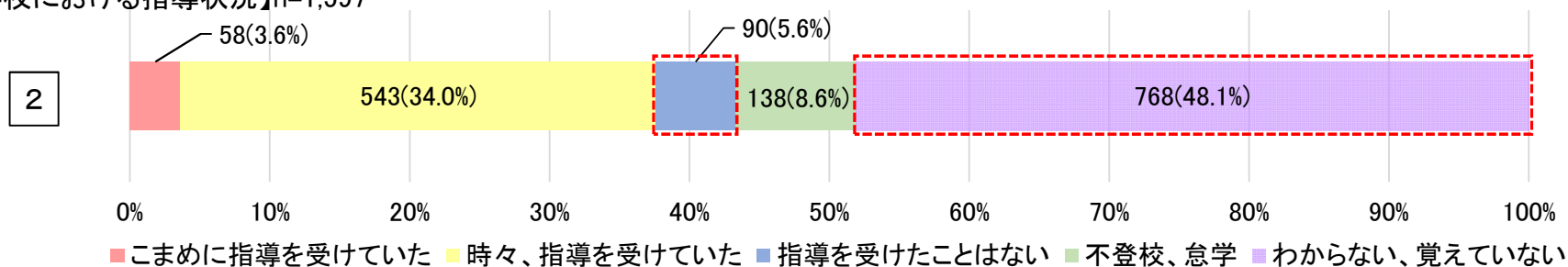


- 被害児童が被疑者と会った理由では、「金品目的」や「性的関係目的」といった援助交際に関連する理由が4割強。
- インターネット利用等に関して、学校で「指導を受けたことはない」と回答した児童は1割未満。他方で「覚えていない」と回答した児童が約半数。
- フィルタリングの利用の有無が判明した被害児童のうち、約9割がフィルタリングを利用せず。

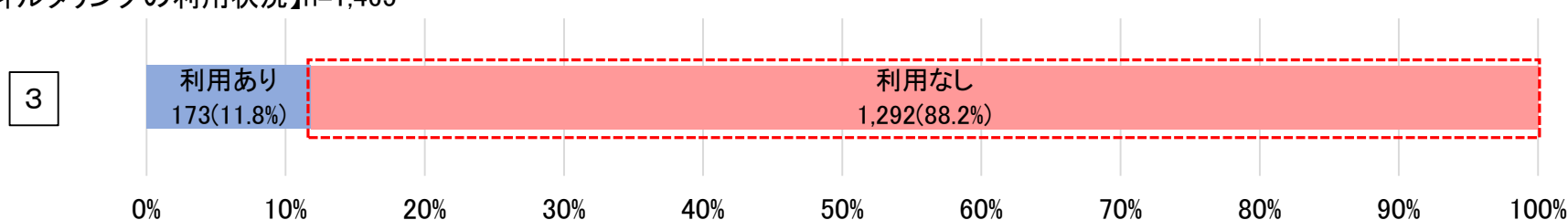
【被害児童が被疑者と会った理由】n=1,331



【学校における指導状況】n=1,597



【フィルタリングの利用状況】n=1,465



Twitterにおける被害児童数が約2倍に増加。全被害児童のうち、4人に1人がTwitterにおける被害。  
Twitterを除く他のサイトにおける被害児童数は、約1割減少。

